

1. 迫害によって散らされる 19節a

「ステパノのことから起こった迫害により散らされた人々」

- 7:54-8:3参照 個人への迫害→教会全体への迫害

人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者が みな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。彼らがこういうことを行うのは、父をもわたしをも知らないからです。しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時がくれば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。ヨハネ16:2-4

2. キプロス人とクレネ人 19-20節

- エルサレムからアンティオキアは直線距離で約500km

「ユダヤ人以外の人には、だれにもみことばを語らなかった」

- 百人隊長（異邦人）にも聖霊が下り、バプテスマが授けられたことを知らなかったのだろう。

「キプロス人」「クレネ人」

- どちらもローマの属州とされ、ギリシア語が公用語として使われていた。

3. 主の御手 21節

① 主の御手とは何か？

- 旧約聖書では、「主の御手」は「神のこの世界への介入」を示す。
- 例えば、「主の手が下る」（出9:3）は、神のエジプトに対するわざわい。

このエズラがバビロンから上って来たのである。彼はイスラエルの神、主がお与えになったモーセの律法に通じている学者であった。彼の神、主の御手が彼の上にあったので、王は彼の願いをすべてかなえた。エズラ7:6

- 王の願いがかなったのは、背後で神が人間の考えや感情にまで影響を及ぼしていたということ。

② いつからあったのか？